



- 体育会名：関西学院大学体育会ゴルフ部
- 創部年：1954年(昭和29年)
- 2025年度会員数：58人(4年15人、3年14人、2年12人、1年17人)

- 同窓倶楽部名：関西学院大学体育会ゴルフ部同窓倶楽部  
\* 関西学院同窓会 公認団体
- 同窓倶楽部通称：ゴルフ部 OB 会
  - 設立年：1960年(昭和35年)
  - 会員数：756人(男性641人、女性115人)  
\* 物故者含む

## 1929(昭和4)年以降 上ヶ原篇「ゴルフ」

### 【黎明期】

明治維新後に我が国に導入された西洋スポーツは、まず慶應、早稲田、旧制一高、東京高師(筑波大の前身)などの間での、母校の名誉をかけた対抗戦でスタートした。それがやがて六大学野球リーグ戦などの連盟組織での行事に発展していく。このような歴史を背景に、学生ゴルフでも対抗戦は個人競技よりも重要視されたイベントだった。

ゴルフ部ではなかったが、この時期に重要な役割を果たした人物が西村貫一である。1892年神戸市生まれ、1909年関学普通部卒業。16年頃からゴルフを始め、日本最初のプロ福井覚治について上達し、24年鳴尾ゴルフ倶楽部のキャプテンでハンディ5であった。また、夫人マサは5年連続関西婦人チャンピオンになった。30年に「日本ゴルフ史」を書いてゴルフ初期の記録を伝えるとともに、ゴルフ文献の収集家としても知られ、これらの文献は廣野ゴルフ倶楽部内にあるJGA博物館に保存されている。24年の「日本ゴルフ協会」創立時に、伊藤長蔵と共に日本人5人、外国人6人の創立者の1人となった。60年に68歳で死去している。

35年7月に行われた第1回7大学対抗は慶大、明大、早大、法大そして学習院、帝大、立教大も加わって、1校から12人が出場。ダブルス3試合、シングルス6試合(各18ホールマッチ)で競う勝ち抜きトーナメントで争った。また関西では関学と甲南大、関大、同志社がともにしのぎを削りながら学生ゴルフ界を牽引していた。けれども、連盟の組織化は関東中心に進み、関西の学生連盟、東西を統括する全日本学生連盟が組織されるのは、ずっと時代が下がつて戦後しばらくたってからのことである。

一方、個人の学生チャンピオンを決める第1回関東学生選手権は、前出の七大学対抗に続いて同年9月に霞ヶ関カンツリー倶楽部(東コース)で開かれた。慶大6人、明大3人、早大、高千穂高商、帝大、旧制浦和高、法大、学習院1人という厳選されたメンバーに加え、関東以外の地域の学生は「招待扱い」で出場した。決勝は木場貞輝(学習院)と古川恒平(関学)の間で争われ、木場が7アンド5で優勝したが、招待選手である古川の決勝進出は、関東勢にとっては予想外のことだったかもしれない。

この大会は翌36年から「全日本学生ゴルフ選手権」に名称を変更して開かれるようになるが、大会の開催回数は前年の「関東学生」から通算することになり、名称が変わってからも関東学生連盟が大会を主催した。全日本学生と改称しての初めての大会は36年9月、前年同様に霞ヶ関カンツリー倶楽部東コースで行われ、前回は招待選手だった古川恒平が口塔慎一(明大)に3アンド2で勝って優勝し、リベンジを果たしている。

#### 【クラブから部への昇格】

古川恒平が全日本学生選手権に勝った当時は、まだ関学ゴルフ部は結成されていなかった。第2次大戦後の50年に大橋貞吉、土井一郎(前ゴルフ部 OB 会長)が同好会を結成し、52年にクラブとして運動総部に加入した。その年、塚本陽三が関西学生選手権優勝。団体は春秋に関西制覇し、東の王者慶大を破っている。それらの戦績を評価され、部に昇格したのは54年であった。

#### 【団体戦】

全国団体では男子が57年に信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦(以下信夫杯)に優勝(蒲生、岩国、安富、鎌倉)している。

関西男子においては春季5度(58、64、72、2009、10)、秋季6度(57、58、67、71、2003、09)に優勝している。75年ごろから低迷期が続いたが、2003年に31年ぶりに優勝したのを皮切りに、09～10年にかけて春秋関西3連覇、全日本でも2年連続4位と健闘している。

また女子では関西女子学校対抗競技が秋に開催され、60年代には連続で優勝していた。

以降80年に関西制覇した後は、部員不足もあって目立った成績はなかったが、2012年春に1部復帰。翌13年秋に33年ぶりとなる念願の関西制覇を成し遂げ、その勢いそのまま乗り込んだ信夫杯においても史上初の3位に入賞した。なおこの大会では当時1年生の植手真美が最優秀選手(MVP)を獲得している。

#### 【個人戦】

一方、全国個人では59年に蒲生雄蔵(旧名雄之輔)が日本学生選手権と朝日杯争奪日本学生選手権(以下朝日杯)に優勝。更に60、61年と上田靖彦も朝日杯を連覇し、69年も渡辺武三(現総監督)が朝日杯優勝。女子では65年に木村(旧姓花田)妙子が日本女子学生選手権で優勝している。

個人の関西制覇は、男子17度(関西学生／52年塚本揚三、53、54年森本文三、54年土井直治、58年蒲生雄蔵、60年上田靖彦、61年広瀬義兼、66年山川善一郎、68年入江勉、70年渡辺武三、連盟杯／60、61年上田靖彦、70年入江勉、71年渡辺武三、78年伊藤彰彦、79年石井隆史、会長杯／2008年上典慶)、女子7度(関西女子学生／65、66、68年木村妙子、2019年森田就子、女子連盟杯／65、68年木村妙子、女子会長杯／2021年森田就子)を数える。

また現在プロの入江勉はアマチュア時代に日本オープンベストアマや日本アマ2連覇など優勝25度、世界アマ、アジアアマの代表各3度(詳細は後述)など、70年から75年までの日本アマチュアゴルフ界に「入江時代」を築いた。その後プロに転向し、関西オープンなど3勝を挙げた。なお、85年くずは国際優勝時の初日に記録した「59」は、2010年中日クラウンズで石川遼選手が「58」を出すまで日本プロゴルフトーナメント史上最少スコア記録の1つとして残り続けた。

併せてプロのトーナメントを語るうえで忘れてはならない人物が大西久光である。関学でゴルフ部主将を務め、日本ダンロップ(住友ゴムの前身)入社後にダンロップスポーツエンタープライズを設立、多くのゴルフトーナメントを手掛けて日本ゴルフ界の発展に寄与した。またゴルフのテレビ中継の解説者としても活躍。夫人は関学OGのフィギアスケート選手で冬季五輪代

表になった大西(旧姓山下)一美である。

#### 【世界大会】

夏季五輪におけるゴルフ競技は1900年パリ大会と04年セントルイス大会の2度実施され、その後長らく除外されていたが、2016年リオデジャネイロ大会から正式種目に復帰した。

それまではオリンピックに替わる世界大会としてアイゼンハワートロフィー世界男子アマチュアゴルフ選手権(男子アマチュアゴルフの国別対抗戦)が1958年から2年に1度開催されており、その第3回と第4回に広瀬義兼、第5回には弟の広瀬義晋、第6回は前田正一郎、第7回から9回までは入江勉(前出)と、関学勢が連続して世界大会の代表として活躍していた。

また、ノムラカップアジア太平洋アマチュアゴルフチーム選手権(冠のノムラは、大会創設時JGA副会長で、戦前戦後を通じてゴルフの国際交流事業に多大な貢献を寄せた野村駿吉氏の偉業を讃えるもの)にも第1回と第2回に広瀬義兼(第1回は日本チーム優勝)、第3回前田正一郎、第4回から6回までは入江勉が日本代表を務めていた。

なお近年では2024年にフィンランドで開催された世界大学ゴルフ選手権(RUUHIKOSKI GOLF COURSE)において日本から派遣する男女各3名の選手を率いる団長に小野博史監督と当校の部員で国際学部4年だった細田詩織が通訳として携わった。

#### 【JGA アカデミック・ゴルフ・アワード】

日本ゴルフ協会(JGA)によるこの制度は1999年から始まり、社会人として、またゴルファーとして将来の日本を担う、ゴルフ技術はもとより学業、人間性、ゴルフ界への貢献活動など総合的に優れた学生ゴルファーと、そのゴルファーを育てたゴルフ部を表彰し、学生ゴルフの健全な発展に寄与することを目的に制定された。

2006年度(第16回)に当時4年で主将の岸田佑典が全国大学ゴルフ対抗戦で最優秀選手になったことを評価され、大学とともに受賞。小野博史監督と共に表彰された際の写真にはのちに女子プロとして活躍する森田理香子(当時は高校生)の姿も映っている。

#### 【千刈カンツリー倶楽部】

1965年に開場した千刈カンツリー倶楽部は、当時の文学部栗野頼之祐教授による強力

な推進の賜物であった。従来の授業料一本に依存する学院経営からの脱却と、同窓生の健全な社交と学生への社会教育の場の提供、社会への PR も含めた画期的な提案であった。過去にはゴルフ場経営に係わった大学があり、国際基督教大学(ICU)や東大の検見川総合運動場も一時期はゴルフコースだった。しかしこれらはもう既になく、日本で唯一の学校法人が所有するゴルフ場(2018年当時の理事長はゴルフ部長でもある向井考史神学部教授)になっている。その当初理念を引き継ぐ千刈カンツリー倶楽部の深い理解と支援により、大学のみならず高等部ゴルフ部のラウンド練習、キャディ業務を通した社会勉強の場を提供し続けて頂いている。

〔参考資料〕

関西学院大学体育会ゴルフ部創部 50 周年記念誌

関西学院スポーツ史話 一神戸原田の森篇一

関西学院事典(関西学院事典編集委員会)

関東学生ゴルフ連盟の七十年

甲南体育会大学ゴルフ部創部 50 周年記念誌

日本ゴルフ協会(JGA)ホームページ

JGA ゴルフジャーナル JULY 2007 Vol.81

日本ゴルフコース設計者協会ホームページ 21 世紀ゴルフへの提言

ウィアー・ゴルファーズ 2007 6 月号(日経 BP 社)

ゴルフ部 部史 編集担当者

小野博史(1980・S55 法学部)